

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人滋賀大学

1 全体評価

滋賀大学は、地域に根ざす視点とグローバルな視野とをあわせもつ「知の拠点」として、豊かな人間性を備えた専門性の高い職業人の養成と、創造的な学術研究への挑戦を通して、社会の持続可能な発展に貢献することを基本理念としている。第3期中期目標期間においては、こうした理念を踏まえて、グローバル化する社会にふさわしい未来志向で文理融合の学識と、地域の発展に貢献できる課題解決能力を備えた、イノベーティブな創造力を有しリーダーシップを発揮できる人材の育成をさらに推し進めるとともに、これまでの重点領域である環境・リスクの研究課題に継続して取り組むのみならず、新たな重点領域を切り拓いていくことを目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、特色ある組織設置を契機とした教育研究の強化やデータサイエンス教育研究拠点としての取組を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 連携協定を結んでいる企業等から、データサイエンスに関する高度な再教育機関の早期設置の要望を受け、社会人学生の確保に向けて企業との連携をさらに拡大させたほか、大学院設置に必要な教員採用を実施したことにより、平成29年4月に開設したデータサイエンス学部の学年進行の完成を待たずに、平成31年4月に大学院データサイエンス研究科（仮称）修士課程を開設することとしている。（ユニット「ビッグデータ時代におけるデータサイエンス教育拠点の形成」に関する取組）
- 全学共通教養科目として「データサイエンスへの招待」を初めとする4科目を提供している。また、統計教育連携ネットワークの研究集会を開催し、データサイエンス教育に取り組む後続の大学への参考として、データ活用能力育成に関する大学の教育内容・方法を紹介するなど、データサイエンス教育研究拠点としての取組を実施している。（ユニット「ビッグデータ時代におけるデータサイエンス教育拠点の形成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特筆	一定の 注目事項	順調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化	○					
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある

(理由) 年度計画の記載18事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、特筆すべき点があること等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について特筆される。

○ 特色ある組織設置を契機とした教育研究の強化

学長のリーダーシップの下、国内初となるデータサイエンス学部の創設を契機に「滋賀大学イノベーション構想」の実現に向けて、自治体、企業等との連携や教育研究の強化に取り組んでおり、37の企業等と連携協定等を締結するほか、現役データサイエンティストの講師招へい等の連携先は50を上回るなど、第3期中期目標期間の目標を達成している。また、寄附金受入額は第3期中期目標期間中の目標額3億円の3分の2（約2億1,400万円）となるとともに、受託研究等の受入額も増加（対前年度4倍以上約6,600万円）するなど、外部資金獲得につながっている。さらに、企業等との連携強化によりデータサイエンスの社会実装の活用事例に直接触れる教育体制の展開を行うとともに、共同研究の成果をPBL（Project-Based Learning）の演習教材として活用するなど教育体制の強化も実施しており、特色を活かした取組が評価できる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 「オンライン講座受講型」AO入試の実施

国立大学初の実施として、データサイエンス学部において、大規模公開オンライン講座（MOOC）の受講を課題とする「オンライン講座受講型」のAO入試を実施している。志願者がMOOC教材を事前に視聴し、その内容に関するレポートを出願時に提出、レポート合格者はレポートに関するプレゼンテーションを含む面接を実施するなど、学力の3要素を多面的・総合的に評価するための入学者選抜に取り組んでいる。